

第11回 韓日学生シンポジウム (The 11th Korea-Japan Students' symposium)

第11回韓日学生シンポジウムが、11月8日～10日の3日間、ソウル市内のソウル国立大学で開催され、東北大学、ソウル国立大学など多数の研究・教育機関から多くの教育者・研究者・大学院生・大学学部生が参加した。参加者の総数は、およそ70名(うち外国人40名・4カ国)であった。

東北大学の水崎研究室とソウル大学の Yoo 研究室間での、日韓学生シンポジウムは2000年よりこれまで10回行われてきた。本大会開催のきっかけは Seoul National University Yoo 教授が、2000年4月に研究交流の一環で客員教授として東北大学科学計測研究所(現：多元物質科学研究所)に着任した際の、Yoo, 水崎両教授の放談の中での「これからは教職員のみならず、未来を担う学生間でこそ研究・文化交流をより一層推進するべきだ」との考えに端を発している。この声を受け “Symposium of the students, by the students, for the students” というスローガンの下、学生主導の企画・運営によりこれまでのシンポジウムを開催してきた。

第1回は韓国ソウル大学で行われた。皆が初めてということで運営等において不慣れな面もあったが、参加者全員の会を成功させようという意気込みと協力により十分な成果を上げることができた。以後、回を重ねるごとに学生間の交流も活発になり、発表・議論の質も向上し、会議の運営もスムーズに行うことができるようになった。それを表すように、シンポジウムの規模は年々大きくなっており、昨年仙台で行われた第10回シンポジウムは、韓国側から22名(ソウル大学、チョンナン大学、KIST)、日本側から26名(東北大学6研究室)の学生が参加し、過去最大の規模となった。今年はそれを更に上回る40件の Oral Presentation, 14件の Poster Presentation, 3件の Tutorial lecture が行われ、それぞれについての議論が展開された。

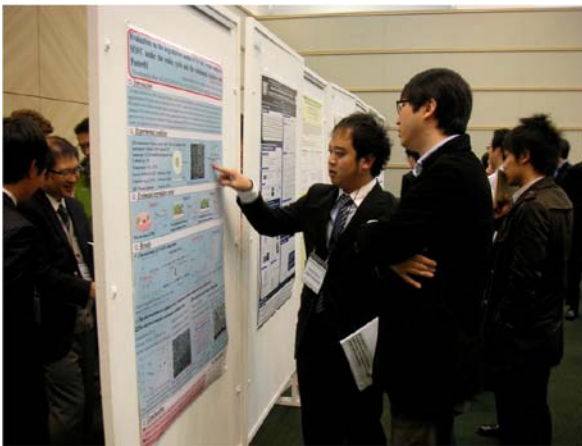
11月10日の夕刻、バンケットでは、日本、韓国の参加者による文化的な交流も盛んに行われ、国際舞台で活躍が期待される若手の研究者には、大きな経験となった。



シンポジウム参加者の集合写真



口頭発表の様子



ポスター発表の様子